

8月10日(月)

柔軟に歩む

聖書朗読 コリント人への手紙 第一 9:19~23

自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。 ピリピ° 2:4

四歳の娘が家中の毛布をリビングルームいっぱいに広げたいと言ってきたとき、私は断りました。また、私が娘の髪をとかすのではなく、娘が私の髪を結いたいと言ってきたときも、私は断りました。もしかしたら私は自分で思っているほど柔軟ではないのかもしれません。物事はこうあるべきだという考えや期待があるために、あまり状況に合わせたくないのかもしれません。もしかしたら自分のやり方に固執しているのかもしれません。

柔軟であることは成熟した人生を歩む上で欠かせません。また、キリストのみからだに属する私たちの歩みにおいても大切なことです。私たちは相手のことを考えて、その人の必要に応えられるように、自分の考えややり方を柔軟に変えることがよくあります。また、人々にキリストを伝えようとするときも、与えられた機会を生かすために、相手に応じて柔軟に対応することがあります。大切なのはバランスです。柔軟に対応すべき時もあれば、しっかり立つべき時もあります。

キリスト・イエスの知恵は、柔軟な対応が毅然とした姿勢か、どちらの戦いに臨むべきかを教えてください。イエス様と共に歩むとき、イエス様がある時は立ち向かわれ、ある時はその場を離れられたことがわかります。ある時は話題を変えられ、ある時はさらに深く真理を語られました。世界は私や私の予定を中心に回っているではありません。もちろん、四歳の娘の願いを中心に回っているのでもありません。私の中心には主がおられます。主の愛が私を神様の作品へと造り変えてくださるのです。

讃美歌 537 わが主のみまえに

祈り 天のお父様、あなたの子どもとされたことを感謝します。今日、置かれた状況の中で、あなたのみこころを見分け、あなたの道に柔軟に従うことができるように私を形造ってください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 ラボック / ロビン・レーン

今日の力

2026年8月10日 ~ 8月16日

翻訳 キャンベル 栄子

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は新改訳聖書第三版を使用しています
※翻訳・編集以外でも協力して下さっている兄弟姉妹がいます

御茶の水キリストの教会

8月11日(火)

寛大な心

聖書朗読 コリント人への手紙 第一 13:1~13

キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。
Iヨハネ 3:16

最近、私たちの国が抱える混乱と不安について書かれた記事を読みました。著者ジョン・ミーチャム*のこんな言葉が心に残りました。《危機にあっては明快さと率直さが欠かせません。同じく寛大な心も欠かせません。》(*編注:アメリカの作家、評論家、歴史家、大統領伝記作家。1969-)

“寛大な心”とは、パウロがIコリント13章で語った『さらにまさる道』を言い換えたものです。アガペーの愛(自分の利益を求めず、犠牲を厭わない愛)という賜物がなければ、ほかのどんな賜物も無意味です。私たちは、どんなに暗い時代にあっても、互いを惜しみなく愛し仕え合うように召されています。

“行動は言葉よりも雄弁である”という警句はまさにそのとおりです。寛大な心を持つ人は忍耐強く親切です。ねたまず、自慢せず、人を辱めたりしません。自分の利益を求めず、すぐに怒らず、人のした悪をいつまでも心に留めません。傷つけられても赦します。私たちは真理を喜びます。愛はいつも守り、信じ、望み、耐え忍ぶからです。『いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。』

聖歌 259 きみはわれのまぼろし

祈り 聖なるお父様、あなたの恵みは絶えず、あなたのあわれみは尽きることがありません。私たちにあなたのいつくしみ深き心を与え、惜しみなく人を愛し、その愛を行いによって示す者としてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 アビリーン / ジュディー・サイバート

8月12日(水)

老いへの怒り

聖書朗読 コリント人への手紙 第二 4:7~18

私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。
ヤコブ 1:2~3

ある朝起きたとき、私は自分が年老いていくことに心底怒りを覚えました。その後、祈りの時間になっても、まだ同じことを考えていました。本当はそんなことはすべきではないと思いつつも、老化の徴候を一つ一つ数え始めました。例えば五感に関するものとか、いくつかに分類し、病気は除外して、それでも35項目にもなりました。以前は出来ていたことが出来なくなったというような大きなことから、容器のふたが開けられなくなったというような小さなことまで色々ありました。このリストを別の州に住んでいる、共に祈っている兄弟に送りました。返事は一言だけでした。それは主からのことばのようでした。「変化をどう捉えるかだね。」

兄弟の言う通りでした。まさに私に必要なことでした。不満と怒りは、いとこのように近い関係で、どちらも年を重ねる過程でよく経験するものです。何かに邪魔されたり、妨げられたりして、私は苛立っていたのです。

そこで、私は真の自分に目を向けられるようにと主に祈りました。『たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。』(IIコリント 4:16b)さらに思い起こされたのは、私は地上では旅人であり寄留者である、永住する者ではなく、仮住まいをしているだけなのだということです。『けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。』(ピリピ 3:20)ですから、老いへの怒りではなく、神様との平安のうちに歩みましょう。

讃美歌第二編 われをも すくいし

祈り 主なる神様、年老いていく上での不満を取り除き、あなたの平安で満たしてください。そして、あなたから与えられた人生を忠実に管理する者としてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 ラボック / ボブ・マイズ

8月13日(木)

主にある喜び

聖書朗読 コリント人への手紙 第二 11:24~28

ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。 II コリント 12:10

使徒パウロは自己弁護するために、使徒としての働きについて語らなければならないと思いました。彼は福音のために耐え忍んできた数々の苦しみを挙げていますが、決して喜ばしい経験として語ったものではありません。

パウロはおそらくそのような経験を楽しんではいなかったでしょう。しかし、それらの苦しみによっても、主にある喜びが失われることはありませんでした。彼は自分が弱いときにこそ神様の力がはっきりと現れることを学び続けました。困難に遭ったことを恨むことなく、むしろ、困難の中で喜ぶことさえできました。なぜなら、困難によって、キリストの力が彼の人生のうちに働く余地が生まれたからです。パウロが考える“幸せ”は、今日、多くの人が考える幸せとはまったく違うものでした。

以前《繁栄の神学》*の説教者がこう話すのを聞いたことを覚えています。「天国で報いを受けるなんて夢物語はどうでもいい。神様は、今、この地上であなたを豊かにしたいのだ。」(*編注:神への信仰と寛大な献金が、物質的な豊かさや健康をもたらすと説く。)あなたは使徒パウロがそんなメッセージを認めると思いますか。

パウロが宣べ伝えた福音は、私たちの主であるイエス様の死と埋葬、そして復活を中心としていました。そして、この福音には永遠の救いをもたらす力があると教えました。それは、この世で得られる一時的な慰めや成功よりもはるかに価値のあるもののなのです。

讃美歌 527 わがよろこび わがのぞみ

祈り 天のお父様、私たちがこの世であなたが何をなさっているかに目を留め、地上の物や自分の満足ばかりを求めることがないように助けてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

アーカンソー州 フェイエットビル / L スコット・ゲージ

8月14日(金)

スーパーマン

聖書朗読 コリント人への手紙 第二 12:1~10

なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。 II コリント 12:10

スーパーマンはとても強い人でした。《弾よりも速く、力は機関車よりも強く、高いビルもひとつ飛び!》でした。しかし、そのスーパーマンにも弱点はありました。クリプトナイトという石に触れると、彼はまったく無力になってしまうのです。立っていることさえやっという彼の姿は強そうに見えるでしょうか。もちろん見えません。「わー、スーパーマンは弱い。だからこそ強いんだ」などと言う人はいないでしょう。

使徒パウロが語ったことは驚くべきことでした。彼は自分の弱さ、つまり、肉体のとげを誇りました。苦悩、侮辱、迫害、困難を喜んでいるとも言いました。スーパーマンが「私はクリプトナイトが大好きだ」と言ったとは到底思えません。

正直に言えば、私たちの多くは、パウロが教えているように生きることに苦労しています。私も侮辱されることは嫌です。迫害など受けたくありません。苦しみを喜んで受け入れることもありませんし、自分から困難を求めることもありません。しかし、パウロはあることを理解していました。それは、神様の力が私たちの弱さのうちに完全に現れるということです。(II コリント 12:9)

もし私たちが苦痛、困難、挫折、失望を経験したことがなかったら、神様の力が私たちの人生の中で働くのを見ることはないかもしれません。私たちが支えられる必要がなかったなら、神様はどうやってご自身の恵みを示されたでしょうか。もしかすると私たちは、少しペースを落として、神様を信頼し、神様が思いもよらない方法で助けてくださることに、特に自分が最も弱いと感じるときに助けてくださることに目を向ける必要があるのかもしれません。

讃美歌 525 めぐみふかき 主のほか

祈り 主よ、私の弱さの中でも私に寄り添ってくださることに感謝いたします。自分の力よりもあなたの力を信頼することができるよう。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 アービング / ブライアン・ヒューメック

8月15日(土)

御 靈 に よ っ て 歩 む

聖書朗読 ガラテヤ人への手紙 5:19~26

求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。

マタイ 7:7

子どもの頃、私はアーカンソー州で行われたサマーキャンプに参加していました。最終日の夜はいつも B-Rock という自然が溢れた高い岩場で特別集会（ディボーション）が行われ、翌朝、みな家路につきました。

ある年の夏、一番上の姉と友人二人が、キャンプに参加した子どもたちを迎えに来てくれました。帰り道、私たちは濃霧に遭いました。とても霧が深くて、曲がる場所を完全に見過ごしてしまったのです。さらに、乗っている者の一人の具合が悪くなり、路肩に車を止めなければならませんでした。いつもなら短時間の簡単な帰り道だったのですが、前がよく見えなかったために、時間のかかる、先の見えない旅になってしまいました。

人生もそれとよく似ています。主へ向かう私たちの短い歩みは(ヤコブ4:13~14)、正しい道を歩み続けるかどうかにかかっています。注意して歩かなければ、この世の“霧”、誘惑や欲望、不満や試みによって(ガラテヤ 5:19~21)、視界が曇り、道を踏み外しかねません。それよりも、私たちは御霊によって歩みましょう。御霊は私たちを揺るがらない者とし、キリストを映し出す実を結ばせてください。(ガラテヤ 5:22~26)

私たちが求め、探し、たたくなら、神様は私たちを導いてくださると約束してくださっています。神様は私たちの視界をはっきりとさせ、安全な道へ導いてくださいます。

聖歌 581 したいまつる主の

祈り 天のお父様、あなたのお導きを感謝します。あなたにお従いして、物事をはっきりと見分け、知恵を持って歩み、信仰において成熟していくことができますように。あなたの御子イエス様のお名前によって。アーメン。

オクラホマ州 スパイロ / ゲーリー・ウェブスター・ジェームズ

8月16日(日)

自分の心を制する

聖書朗読 ガラテヤ人への手紙 5:13~25

自分の心を制することができない人は、城壁のない、打ちこわされた町のように
だ。 箴 25:28

時々、私たちがお互いの感情を吐露するとき、それは悩みについて励ましを求めることから始まったはずなのに、いつの間にかそれが怒りに変わり、自分の最初の気持ちが変わる方向に向かってしまうことがあります。数年前、私は仕事上感じていた不満や困難を、ある友人に話していました。そのとき、友人はこう言いました。「いっそのこと、そんなこと気にしないと決めて放っておいたらどう？」

彼のことばに私ははっとしました。ほんの小さな出来事に私の心は支配され、苦々しい思いへと追いやられていたのです。本来は忍耐をもって人と関わり和解を求めるべきなのに、私は小さな不満の種を育て、思いやりや自制のことばをふさぐ、伸び放題の蔓^{つる}にしてしまいました。

クリスチャンは自分の心をキリストの支配のもとに置かなければなりません。そうしないと、心の中にある不満が急速に大きくなり、人生全体をのみ込んでしまいます。怒りのことばを口にしがちな私たちが聖霊によって変えられ、恵みのことばを語る者となりますように。私たちが自分の態度をキリストにゆだねるとき、私たちは不平のかわりに恵みを選ぶことができます。

私たちは状況を変えることはできなくても、聖霊によって、状況にどう応えるかを選ぶことができます。キリストに支配された心は堅固な城壁のある町のように、守られ、揺るがず、平安に満ちています。

讚美歌 499 御霊よ 降りて

祈り 愛する主よ、あなたにお従いし、自分の心を制することができますように。私のうちに、寛容、平安、恵みの実を育ててください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テネシー州 グリーンフィールド / ウィル・ノリッド